

# TEX で色々な数式を記述する

栗野 俊一 \*

Ver. 0.05 (2017/10/24 版)

## 1 TEX の基本

### 1.1 文章

TEX で文章を作成する場合、まずは、base.tex の「本文」の部分に普通に日本語の文字列を入力します。すると、その入力された文章が、そのまま整形されて表示されるようになります。

#### 非整形文章

例えば、\TeX の文中に、こんなふうに、いい加減に、  
文章の途  
中に改行を入れてみます。  
そうやって、長い文を、複数の行に分けて記入します。  
もちろん、一行の中に複数の文を入れてもかまいませんが、  
それはとってま{\em 編集しにくい文章}になってしまうわけです。

これは、\TeX の良いところです。  
なぜなら、「表示に都合が良い形が、必ずしも編集に都合が良いとは限らない」からです。  
\TeX では「編集しやすい形で内容を編集」し、  
それを自動的に「表示に都合が良い形に変換して表示」してくれます。  
だから、\TeX の利用者は、  
「あまり表示結果の事を気にせず、{\em 内容の作成に専念}する」  
事ができます。

これは、TEX で変換すると次の様に整形され、右揃えして表示されます。また、空行があると、段落の区切と解釈され、段落を分けて\*1くれます。

\* 日本大学理工学部数学科 准教授 (kurino@math.cst.nihon-u.ac.jp)

\*1 もちろん、日本語の習慣にあわせて、段落の頭は、一文字下げもしてくれます。

### 整形後の文章

例えば、 $\text{T}_{\text{E}}\text{X}$  の文中に、こんなふうに、いい加減に、文章の途中に改行を入れてみます。そうやって、長い文を、複数の行に分けて記入します。もちろん、一行の中に複数の文を入れてもかまいませんが、それはとっても編集しにくい文章になってしまうわけです。

これは、 $\text{T}_{\text{E}}\text{X}$  の良いところです。なぜなら、「表示に都合が良い形が、必ずしも編集に都合が良いとは限らない」からです。 $\text{T}_{\text{E}}\text{X}$  では「編集しやすい形で内容を編集」し、それを自動的に「表示に都合が良い形に変換して表示」してくれます。だから、 $\text{T}_{\text{E}}\text{X}$  の利用者は、「あまり表示結果の事を気にせず、内容の作成に専念する」事ができます。

## 1.2 マクロ

特別な表示（例えば、数式）を行いたい場合は、通常、「 $\backslash$ 」（バックスラッシュ、あるいは円マーク「 $\yen$ 」）の後に英字列を並べたもの（例えば、「 $\backslash\text{TeX}$ 」や、「 $\yen\text{TeX}$ 」など、これは「 $\text{T}_{\text{E}}\text{X}$ 」と表示される）を記入します。

これらは、 $\text{T}_{\text{E}}\text{X}$  にとって、特別な意味があり、これを他の文字列と区別して、「マクロ」と呼んでいます\*2。 $\text{T}_{\text{E}}\text{X}$  で学ぶ事の一つは、どの様なマクロがあり、また、それがどの様な影響を持っているかを知る事です。

## 1.3 注意：バックスラッシュと円マーク

テキストや、Web 上での表記が「 $\backslash$ 」なのに、普段利用する時には「 $\yen$ 」を使うのは「日本の特殊事情\*3」だと思ってください。

以下、この文章は、「 $\backslash$ 」を使いますが、皆さんは、すべてこれを「 $\yen$ 」に置き換えて考えてください。

## 2 数式の基本

$\text{T}_{\text{E}}\text{X}$  の中で数式を利用する場合、その数式が文中にあるか、それとも段落として独立しているかを区別する必要があります。

### 2.1 数式を文中で利用する場合

数式を文中で利用する場合は、数式を「 $\$$ 」で挟む必要があります。例えば、次の様にします。

文中に式を入れる例 ( $\text{T}_{\text{E}}\text{X}$ )

文中に数式 $y=\frac{1}{x}$ を入れた場合。

ここで、 $\frac{1}{x}$ は分数を表現するマクロです。これは、次の様に表示されます。

\*2 これを何故、「マクロ」と呼ぶのかは、後日説明します。

\*3 コンピュータでは、コード（文字を表現する数値）に対してどの文字（の表示の形 [フォント]）を表示するかの表（文字コード表）を定め、その表に基いて、文字の表示を行っている。

海外では、ASCII コード表（主に、半角文字に対応する数値の表で、数値  $0x5C$  には  $\backslash$  [バックスラッシュ] を対応させる）が利用されるが日本では JIS X 0201 コード表（ASCII の範囲では、 $0x5C$  以外は同じフォントだが、 $0x5C$  だけ  $\yen$  [円マーク] に対応させる）が利用されているため。

文中に式を入れる例 (タイプセット後)

文中に数式  $y = \frac{1}{x}$  を入れた場合。

## 2.2 数式を段落として独立させる場合

数式を段落として独立させる場合は「\[」と「\]」で挟みます。

段落としての数式 (TEX)

段落として数式  
\  
 $y = \frac{1}{x}$   
\]  
を入れる場合。

これは、次の様に表示されます。

段落としての数式 (タイプセット後)

段落として数式

$$y = \frac{1}{x}$$

を入れる場合。

この様に、\$ と \$ や、\[ と \] に挟まれた部分は、「数式モードになっている」と言います。

## 2.3 文中でも数式を大きく表示させたい場合

文中の数式と、段落の場合の数式では、色々が表示が異なります。上記の例の様に分数や、総和などを利用する場合は、大きさや位置が変化します。

文中の数式 (T<sub>E</sub>X)

文中に分数  $y=\frac{1}{x}$  や、  
総和  $\sum_{i=1}^n(2\times i-1) = n^2$  を入れると  
不格好です。

次の様に段落として、記述すれば、綺麗なのですが。

```
\[  
y=\frac{1}{x}  
\]
```

```
\[  
\sum_{i=1}^n(2\times i-1) = n^2  
\]
```

ここで、`\sum` は総和を、`\times` は、積を表すマクロです。これは、次の様に表示されます。

文中の数式 (タイプセット後)

文中に分数  $y = \frac{1}{x}$  や、総和  $\sum_{i=1}^n(2 \times i - 1) = n^2$  を入れると不格好です。  
次の様に段落として、記述すれば、綺麗なのですが。

$$y = \frac{1}{x}$$

$$\sum_{i=1}^n(2 \times i - 1) = n^2$$

この様な場合は、`\displaystyle` というマクロを先行させれば綺麗な表記になります。ただし、行間が空  
くので、数式が綺麗でも、ページとしてはちょっと不格好になります。

`displaystyle` の利用 (T<sub>E</sub>X)

文中の数式でも $\displaystyle\frac{1}{x}$  の様にできます。

これは、次の様に表示されます。

`displaystyle` の利用 (タイプセット後)

文中の数式でも  $\frac{1}{x}$  の様にできます。

### 3 色々な数式

#### 3.1 数や変数

数字列からなる数値や、英字 1 文字からなる変数<sup>\*4</sup> は、入力したものが、そのまま表示されます。ただし、フォントがイタリックに変化し、数式内の変数や数値である (数式モードである) 事が解ります。

数式内の英字 (T<sub>E</sub>X) —

ふつうに「123」や「xyz」とした場合と数式モードにした「 $\$123\$$ 」や「 $\$xyz\$$ 」では微妙に表示が異なります。

数式内の英字 (タイプセット後) —

ふつうに「123」や「xyz」とした場合と数式モードにした「 $123$ 」や「 $xyz$ 」では微妙に表示が異なります。

#### 3.2 指数や添字

指数や、添字を付ける場合は、「 $\wedge$ 」や「 $\_$ 」を使います。

上付き、下付き文字 (T<sub>E</sub>X) —

指数は、 $\$x^2\$$ の様に「 $\wedge$ 」を利用し、添字は $\$x_i\$$ の様に「 $\_$ 」を利用します。

上付、下付文字 (タイプセット後) —

指数は、 $x^2$ の様に「 $\wedge$ 」を利用し、添字は $x_i$ の様に「 $\_$ 」を利用します。

#### 3.3 範囲指定

上記の「 $\wedge$ 」や「 $\_$ 」は、後にくる「一つのもの」だけを、指数や、添字として扱います。例えば、良くある失敗は、次の様なものです。

上付き、下付き文字の範囲の指定の失敗例 —

$\$x^{10}\$$ とすると $x^{10}$ になってしまい、 $x^{10}$ とならない。

もし、指数や添字の範囲を指定したい場合<sup>\*5</sup>は、その範囲を「 $\{$ 」と「 $\}$ 」(ブレース)とで囲みます。

ブレースによる上付き、下付き文字の範囲の指定 —

$\$x^{\{10\}}\$$ とすると、 $x^{10}$  となって嬉しい。これを利用すれば、 $\displaystyle x^{\{x^{\{x^x\}}\}}$ などとして、 $x^{x^x}$  の様な事もできますし、 $\$x_{i-1}\$$  と  $\$x_{\{i-1\}}\$$  とすることにより、 $x_i - 1$  と  $x_{i-1}$  を書き分ける事が可能になります。

<sup>\*4</sup> 数式の世界では変数を 1 文字で表す習慣があります。従って、英字が並んでいる場合 (例えば  $xyz$  の場合) は、複数の変数の積を表現している (すなわち  $x \times y \times z$  の「 $\times$ 」を省略した記法) と解釈される事に注意してください。

<sup>\*5</sup> 逆に言えば、指数や添字の長さが 1 でない場合は、範囲指定が必要なわけですが、一々、文字数を考えるのは面倒ですから、「かならず、範囲指定をする」と「決めておく」と良いでしょう。

この「{」と「}」を利用した、範囲の指定は、色々な所で利用するので、憶えておきましょう。

### 3.4 関数名

三角関数名などをそのまま書くと、変数の積と区別が付ません。そこで、よく利用される関数に関しては、予め、その関数に対応したマクロが定義されているので、それを利用します。

関数名

$\$sin(\frac{\pi}{4})=\frac{\sqrt{2}}{2}\$$  と書くと、 $sin(\frac{\pi}{4}) = \frac{\sqrt{2}}{2}$  となって、関数の様に見えません。

このような場合は、マクロ  $\$sin$  を利用して、 $\$sin(\frac{\pi}{4})=\frac{\sqrt{2}}{2}\$$  とすれば、 $sin(\frac{\pi}{4}) = \frac{\sqrt{2}}{2}$  となって、関数の様に見えます。

## 4 数学科の科目の数式

数学科一年で学ぶ数学科の科目の数式を  $\text{T}_{\text{E}}\text{X}$  で表現してみましょう\*6。

### 4.1 微分積分学

微分積分学では、極限や積分などを利用します。

数列の極限は、

極限值 ( $\text{T}_{\text{E}}\text{X}$ )

```
\[
\lim_{n\rightarrow\infty} \frac{1}{n} = 0
\]
```

とすると、

極限值 (タイプセット後)

$$\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{1}{n} = 0$$

となります。

件の  $\epsilon - N$  論法ですが、

\*6 担当の先生にお願いすれば、配布されるプリントの  $\text{T}_{\text{E}}\text{X}$  のファイルが入手できると思います。是非、お願いしてみよう。

$\epsilon - N$  論法 (TeX)

```
\[
\lim_{n \rightarrow \infty} a_n = \alpha
\, \Leftrightarrow \,
\forall \epsilon > 0 \,
  \exists N_0 \, \text{s.t.} \,
  [
    \forall n \geq N_0 \Rightarrow |a_n - \alpha| < \epsilon
  ]
\]
```

として、

$\epsilon - N$  論法 (タイプセット後)

$$\lim_{n \rightarrow \infty} a_n = \alpha \Leftrightarrow \forall \epsilon > 0 \exists N_0 \text{ s.t. } [\forall n \geq N_0 \Rightarrow |a_n - \alpha| < \epsilon]$$

といった感じ。

微分は、

微分 (TeX)

```
\[
\frac{d^2 f}{dx^2} = f''(x) = f^{(2)}(x)
\]
```

とすれば、

微分 (タイプセット後)

$$\frac{d^2 f}{dx^2} = f''(x) = f^{(2)}(x)$$

となります。

積分は、

積分 (TeX)

```
\[
\int x \, dx = x^2 + C \,
\text{\mbox{\{ \$\$ は積分定数 \}}}, \,
\int_0^1 \frac{1}{\sqrt{1-x^2}} \, dx = \frac{\pi}{4}
\]
```

とすれば、

積分 (タイプセット後)

$$\int x dx = x^2 + C (C \text{ は積分定数}), \int_0^1 \frac{1}{\sqrt{1-x^2}} = \frac{\pi}{4}$$

となります。\\, は、数式モード内で利用し、少し空白を入れるマクロです。数式モードでは、ほとんどの場合空白は無視されるので、明示的に空白を入れたい場合などに重宝します。

## 4.2 代数学幾何学 (線形代数)

ベクトルや行列は、数が並んでいるものを扱います。このような場合は`\begin{array} ~ \end{array}` を利用します。縦の長さは、行の長さになります。また、横の長さは、`\begin{array}` の後にその個数 (ベクトルの場合は一個なので `{c}` とし、3 列の場合は、その個数を表すために `{ccc}` と、「c」の個数で、列の個数を指定します) を表現します。

例えば、ベクトルや行列は次の様に表現します。

ベクトルや行列 (TeX)

```
\[
\overrightarrow{a} =
\left(
\begin{array}{c}
1 \\
2 \\
3
\end{array}
\right)
, \,
A =
\left(
\begin{array}{ccc}
1 & 2 & 3 \\
4 & 5 & 6 \\
7 & 8 & 9
\end{array}
\right)
\]
```

とすれば、



ベクトルや行列 (タイプセット後)

$$\vec{a} = \begin{pmatrix} 1 \\ 2 \\ 3 \end{pmatrix}, A = \begin{pmatrix} 1 & 2 & 3 \\ 4 & 5 & 6 \\ 7 & 8 & 9 \end{pmatrix}$$

となります。

## 5 Mathematica の利用

数式の計算を手作業でしたくない場合や、そもそも  $\text{\TeX}$  で、その式をどうやって表現してよいか解らない場合<sup>\*7</sup> に、それを *Mathematica* に聞いてしまう という手もあります。

*Mathematica* には、`TeXForm` という関数があり、「*Mathematica* の式」を `TeXForm` に渡すと、「 $\text{\TeX}$  の式の表現」が表示されます。

後は、これを  $\text{\TeX}$  ファイルの中に Copy & Past するだけです。

---

<sup>\*7</sup> その場合は、当然、「ググる」のが正しいが、その他にも.. という話。